

講義内容

現代社会研究

Studies in Contemporary Society 2単位

現代社会の諸相や政策を文学研究科の観点から分析し、高等教育としての研究意義を共有する。ここではオムニバス方式で授業が行われ、現代社会を異なる角度から検証する。取り上げるテーマは、現代の社会力学および社会倫理、現代の人間を取り巻く課題、現代の教育課題および教育政策、現代社会における言語と文化、である。それぞれのテーマを担当する教員から研究内容の解題が行われ、あわせて課題レポートの提出が求められる。受講者はこの授業をとおして各自が追究する研究課題の位置づけを明確にする。

- (1) 現代の社会力学および社会倫理。
- (2) 現代の人間を取り巻く課題。
- (3) 現代の教育課題および教育政策。
- (4) 現代社会における言語と文化。

アカデミック・リテラシー

Academic Literacy 2単位

文学研究科で論文を執筆し、学会や研究会で発表することを想定した授業を行う。論文の要件やプレゼンテーションの手法を学ぶと同時に、関連学会についての理解も深める。ここではオムニバス方式で授業が行われ、担当教員の講義とそれを基にした演習が行われる。取り上げるテーマは、関連学会の紹介および研究発表の概要、データ収集および統計処理、言語コーパスなどの研究ツールの紹介と使い方、英語論文の要件と書き方、である。この授業をとおして研究論文の質的レベルを確認し、各自の研究が効果的に遂行できるようにする。

- (1) 関連学会の紹介および研究発表の概要説明。
- (2) データ収集および統計処理。

- (3) 言語コーパスなどの研究ツールの紹介および使用。
- (4) 英語論文の要件および書き方。

英語教育研究

Studies in English Language Teaching 2単位

英語教育に関する研究を深めるために、多様な角度から英語教育の問題点や課題を洗い出し、それぞれの原因と解決策、および研究手法について概説し、今後の発展的な研究への橋渡しを行う。英語教育は時代や社会の要請によって、そのあり方や力点が変わることもあるため、学習指導要領を論拠とするなどして、できる限り現代および今後の英語教育に直接寄与するという観点から授業を展開する。扱う項目として、英語教育の歴史的考察、言語観・言語教育観、英語教育の目的論、教授法・指導法の種類と特徴、学習理論と動機付け、などがある。

現代英語研究

Studies in Contemporary English 2単位

現代英語の特徴と位置づけを明確にするために、英語を様々な観点から分析する。まず現代言語学の枠組みに基づき、規範的アプローチと記述的アプローチの違いを中心に、主な言語学の理論を理解した上で、英語の音韻、語彙、文法、意味、言語変種について概観する。その際に、英語教育を行う上で重要と思われるいくつかの事例を取り上げて問題点と課題について議論する。研究に当たっては、共時的な観点だけではなく、通時的な観点をも適宜交えながら、現代英語への理解をより深いものとする。

言語獲得研究

Studies in Language Acquisition 2単位

言語の知識や運用能力はどのように身につけられるのか、その獲得・発達の過程とメカニズムを文献購読により研究し、特に英語の母語の獲得に関する理解を科学的な視点から深めることを目的とする。取り上げるテーマは、音声言語獲得、語彙獲得、文法獲得など幅広い分野を扱う。言語獲得の過程における、母子相互作用や環境、学習との関わり、第二言語習得との違いなど、様々な視野で、乳幼児から小学生までを対象にデータを収集し研究を体験することで、実践的に研究する訓練を行う。

言語と認知研究

Studies in Language and Cognition 2単位

話す、聞く、読むなどのスキルにおいて必要な言語知識や運用能力とは何か、どのような言語処理が行われているのか、あるいは、どのように文を解釈し、そのための文のルールはどのように説明できるのか、といったテーマを、言語学、認知科学、脳科学など複数の関連分野からの知見をもとに、言語の成り立ちと、コミュニケーション能力や社会性の発達など他の認知能力との関連について考察する。また、言語システムの根本の一つである文法については、認知言語学の視点から観察・考察を行い、文がどのように受容され産出されるかについて理解を深める。

言語使用研究

Studies in Language Use 2単位

現代社会において、言語が実際に使用される様々な状況に焦点を当て、言語の使用目的と使用場面の事例を挙げながら、それぞれの言語使用がどのような特徴を持ち、どのような影響を及ぼすかについて論ずる。まず語用論、会話分析、スタイル、レジスター、ディスコースなどの基本的概

念と研究手法を確認した後、教育、学術、法律、医療、マスメディアなど領域別の言語使用、さらにそれらの背景にある思想について事例研究を行う。その際に日本語との比較をとおして英語の持つ特殊性や独自性についても明らかにしていく。

言語教育政策研究

Studies in Language Policy in Education 2単位

世界のどの地域や国も言語問題を抱えており、国語、公用語、外国語などにおける政策立案と施行が大きな課題になっている。ここでは主として、英米における母語教育や外国語教育、カナダに代表されるイマージョン教育、アジアにおける外国語教育政策などを範にしつつ日本の言語教育について理解を深める。日本の言語教育政策、特に英語教育政策を史的に概観しながら現代の英語教育の課題や可能性を追究していく。言語教育(ことばの教育)は英語などの外国語だけの問題ではなく、日本語も含めて学校教育の重要な課題であることがこの授業の基盤になっている。

英語授業演習

Seminar in Classroom Practice 2単位

英語教授法や指導法の理論を踏まえて、中等学校において実際に効果的な授業が行えるようになるための演習を行う。特に、以下の五つの分野において実践(プレゼン)を試みる。1. 語彙指導法、2. 音声指導法、3. 読みの指導法、4. コミュニケーションの指導法、5. 英語だけで教える指導法指導に当たっては、多様な授業案(lesson plan)の書き方、教材・教具の使い方、授業形態のあり方、などについても指導を行う。現場の授業を観察・体験したり、達人の授業と呼ばれるDVDを視聴したりすることも随時行いながら、授業力を向上させる。

入門期英語教育研究

Studies in Teaching English to Beginners 2単位

学校教育において英語教育が強化されるに伴い、入門期の英語教育が重要になっている。ここでは日本における教育環境と言語習得理論とを鑑みながら、効果的な指導のあり方を研究する。入門期においては多様な外国語活動が行われるが、言語習得の観点からみて特に重要なのが音声指導である。学習指導要領においても入門期において「音声などの素地」を育成することが重要であるということが謳われている。この授業では、入門期の指導法を総合的に押さえつつ、特に英語音声の段階的に確実に獲得できるようになるための研究とトレーニングを行う。

英語教材論研究

Studies in ELT Materials 2単位

外国語の教材には「教科書」からメディア教材にいたるまでさまざまなものがある。しかし基本はテキストと呼ばれる教科書である。ここでは、文部科学省検定済み教科書を基本に据えて、その理念や内容、使い方等について、体験をしながら理解を深める。また、教科書の題材、言語材料、言語活動、シラバスなどについても掘り下げた研究を行い、教材分析の視点や手法を学ぶ。受講者は小・中・高のレベルを想定して、単元分の教材作成、それをもとにした授業案の作成、模擬授業、事後評価、といった教材と授業を効果的に関連付ける技量も修得する。

英語教育総合

Comprehensive Studies in ELT 2単位

英語教員になるための資質、知識、技能を身につけるために英語教育を総合的な観点から研究する。取り上げる領域としては以下のようなものがある。

1. 公教育における教員の要件と資質、2. 英

語教員に求められる知識と指導力、3. 英語力と英語コミュニケーション能力、4. 教員採用試験の実際

受講者は上記のそれぞれの観点において、必要な知識・能力を身につけると同時に、体験やシミュレーションをとおして高度な実践力を身につける。

アメリカ文化研究

Studies in American Cultures 2単位

アメリカは、「多くのものから成るひとつ」を国家のモットーとしてきた。「多くのもの」を尊重するか「ひとつ」に融合することに重きをおくか、相反する立場からの議論がぶつかり合ったり、どちらか一方に大きく傾いたりすることを繰り返しながら、アメリカは多民族・多文化社会の在り方を模索してきたといえる。この科目では、アメリカ文化形成の特質をあらゆる文献の講読を通して、アメリカのアメリカらしさを把握することに努めると同時に、日本がアメリカの経験から何を学べるかを考える。また、辞書・事典類の使用に習熟しながら、アメリカ独特の言語表現の豊かさにも着目する。

イギリス文化研究

Studies in British Cultures 2単位

イギリスは、現代における世界の文化の面でも、言語の面でも大きな影響力を行使してきた。したがって、英語学や英語教育を研究する上でもイギリス文化に関する知識は必要不可欠である。ここでは様々な分野の文献や資料に当たりながら、英語の成り立ち、イギリスの歴史、文学、社会について理解を深める。特に英語およびイギリス文化がグレートブリテン島から、アメリカ、英連邦諸国、そして日本をはじめ世界にどのように広がっていったかということについて、これらの地域の言語文化との比較を交えながら、文学作品や映画などを通して探究していく。

英語圏文学研究

Studies in Anglo-American Literature 2単位

イギリス文学とアメリカ文学を中心に、丹念な講読によって英語による文学作品を読み解いていく。英米文学を読む際に欠かせない辞書および各種事典類の使用に習熟し、語注を作成し、的確な要約をできるように、演習を重ねる。特に、聖書やシェイクスピア作品などに由来する英語独特の慣用表現を見逃さず、英語圏の言語表現の伝統に十分に意識を向けるようにする。また、作品や作者についての文献を検索し、論者の主張を把握しそれを検討することによって、作品を分析する手法を会得していく。研究対象の作品を文学史の中に適切に位置づけられるよう、英米文学史の基礎的な知識を得ることも求められる。

多文化社会研究

Studies in Critical Multiculturalism 2単位

多文化社会で起こる言語が直接的あるいは間接的に関わる様々な問題を取り上げ、批判的アプローチにより分析し、それらの解決法を考える。扱う範囲は言語学を中心としながらも、必要に応じて教育学、社会学、社会心理学、倫理学、文化人類学、法学などにも言及する。ここでは、広義でいうディスコース、すなわちあるメッセージが発せられる時のその背景にある思想や価値観の研究を中心に、言語教育のあり方と社会との関係を論ずる。受講者にとっては当然とされていることを批判的に再検証する習慣を身につけることが要求される。

英語コミュニケーション研究

Studies in English Communication 2単位

英語コミュニケーションの構造や特徴についての研究と英語コミュニケーション能力の修得とを目的にして授業を行う。また、英語教育、英語圏文化、応用言語学を研究するにあたって必要な英

語運用能力を、関連する分野の文献講読やディスカッションを通じて養成することもこの科目の主要な目的の一つである。具体的には、講義および課題を通して、受講者の研究テーマと関連付けながら、英語媒体の資料の収集（図書、ネットワーク）、整理、まとめ、発表（口頭、論文）をスムーズに行うための技法を修得する。

プレサービス・スタディーズA

Pre-service Studies A 1単位

就業前に学外での現場体験を行い、必要な実践力を身につけることを目的とした科目である。プレサービス・スタディーズAは中等教育課程での教育実践の体験を対象とし、併設の玉川学園中学部、玉川学園高等部と連携して、授業や教材作成の補助活動、そしてチーム・ティーチング等の実習を行う。実施に当たっては、計画書の提出、事前指導、事後指導および報告書の提出が義務付けられる。受講予定者は事前に所定の期間内に、計画書を提出し研究科会であらかじめ承認を得ておくことを必要とする。

プレサービス・スタディーズB

Pre-service Studies B 1単位

就業前に学外での現場体験を行い、必要な実践力を身につけることを目的とした科目である。プレサービス・スタディーズBは近年ますます重要性を増している小・中の連携と関連した教育実践の体験を対象とし、併設の玉川学園小学部や近隣の小学校と連携して、授業や教材作成の補助活動、そしてチーム・ティーチング等の実習を行う。実施に当たっては、計画書の提出、事前指導、事後指導および報告書の提出が義務付けられる。受講予定者は事前に所定の期間内に、計画書を提出し研究科会であらかじめ承認を得ておくことを必要とする。

研究指導 I

Master's Research Seminar I

2単位

修士論文を執筆するための研究指導を行う。この科目はそれぞれの学生の研究指導担当教員が中心になって行われる。学生は、研究指導教員の指導のもとに研究テーマを確定して研究に着手する。研究に必要な文献や資料の収集、研究計画の立案、研究調査の実施、フィードバックなどを経て研究を進めていく。研究指導 I は演習科目であり、毎週決められた時間に指導を受けなければならない。また、この科目が修了する時点で、論文の骨格を完成させておく必要がある。

研究指導 II

Master's Research Seminar II

2単位

研究指導 I に引き続いて修士論文を執筆するための指導を行う。研究指導 I と同様に、この科目はそれぞれの学生の研究指導担当教員が中心になって行われる。研究指導 II に着手するに当たっては修士論文の中間報告書を研究科に提出することが求められる。学生は、関連文献の更なる研究と共に、研究データの解析や整理を行いながら論文を完成させていく。修士論文は研究指導教員の指導を受けて完成し、指定された期日に研究科に提出する。